

研究の成果

無加温ハウスで栽培できる切り花の探索

1. はじめに

当センターでは、農家経営の安定化を目指して、スターチス・シヌアータの裏作や栽培面積の一部を代替できる品目を探索しました。選定基準は無加温ハウスで栽培可能で、商品性のある品目とし、開花期の分散化や切り花品質の向上を図るため、電照による開花や生育への影響についても併せて調査しました。今回は有望品目として選定したクラスペディア、ソリダコおよびマメグンバイナズナについて紹介します。

2. 調査方法

クラスペディア‘ゴールドスティック’、ソリダコ‘ソーラーグローリー’、‘ムーンライトグローリー’およびマメグンバイナズナ‘グリーンドラゴン’(図1)を2022年11月30日に無加温ハウスに定植し、収穫時期、収穫本数、草丈を調査しました。また、同じハウス内をシェードで区切り、電照処理区(使用光源；白熱電球、電照時間；17:00～22:00、4:00～7:00の明期18時間)を設けて、無処理区と比較しました。



クラスペディア

ソリダコ



マメグンバイナズナ

3. 試験結果

供試した3品目は無加温ハウスで栽培が可能でした。無処理区における収穫時期、収穫本数、草丈は、表1のようになりました。

表1 無加温ハウスで栽培した時の各品目の調査結果

品目	品種	収穫時期 (月)	収穫本数 (本/株)	草丈 (cm)
クラスペディア	‘ゴールドスティック’	4・5・6	55.3	60.3
ソリダコ	‘ソーラーグローリー’	5・6・7・8	16.0	47.1
	‘ムーンライトグローリー’	5・7・8・9	26.2	70.1
マメグンバイナズナ	‘グリーンドラゴン’	1・4・5	43.7	44.2

(注)2022年11月30日定植

また、クラスペディアでは、電照処理により無処理区と比べて収穫開始日が6日前進し、収穫本数は3割減少しましたが、収穫後半の草丈が長くなりました。ソリダコでは、電照処理により無処理区と比べて収穫開始日が20日前進し、収穫本数は3～5割減少しましたが、草丈が1.6～1.9倍長くなりました。マメグンバイナズナでは、電照処理による開花期への影響は認められませんでした。無処理区と比べて4、5月の草丈が長くなりました。

4. まとめ

クラスペディアは外観が独特で収穫本数も多く、ドライフラワー等、幅広い用途が見込まれます。ソリダコは宿根性で夏越しも容易で、電照処理により草丈の伸長や収穫時期の前進化も可能でした。中でもソリダコ‘ムーンライトグローリー’は花色が白で、従来のソリダコにない花色でした。マメグンバイナズナは側枝が多くボリュームがあり、グリーン花材として利用価値が高いと考えられます。(園芸部 山野 智輝)